学力向上対策室だより

～ 自分で考え、自分で決めて、自分から動く子どもへ ～

R8 10月

最近、学校などでよく聞く子どもの特徴として「指示待ちの子ども」があります。「指示待ちの子ども」とは、親や先生から「～しなさい」と言われないと、自分で考えて行動に移すことができない子どものことです。

これと反対の姿を現すものとして、「**自走する学習者**」「**自走力のある子ども**」があります。もともとはベンチャー企業や IT業界などの人材育成において、マニュアルや上司の指示がなくても成果を出せる優秀な社員をさす言葉として「自走型人材」や「自走力」が使われ始めたそうで、今、学校教育でも注目され始めています。

子どもを学びの主人公に

「自走」は「自学自習（自分で勉強する）」とは少しニュアンスが違い、「自分で目的や計画を決め、困難があっても自分で軌道修正しながら行動し続ける」という、より実践的でアクティブなニュアンスを含んでいます。

学校現場における**自走力教育**は、従来の「先生が教壇から一方的に知識を教え込む授業」ではなく、子どもを学びの主人公にすることをめざします。

泉南市でも取り組んでいる、「自走力」を育む教育活動の一例



学校教育で自走力を育てるメリット



大人がすべて先回りしないことも大切です

子どもが困っていると、つい大人がすぐに答えを教えたり、代わりにやってあげたりしたくなります。

しかし、少し待つことで、子ども自身が考える時間をつくることができます。

例えば、忘れ物に気付いたときにすぐ届けるのではなく、多少困ったとしてもあとで「どうしたら次は忘れにくくなるかな？」と一緒に考える。宿題で手が止まったときにすぐ答えを伝えるのではなく、「どこまでは分かる？」と尋ねる。こうした関わりが、自分で解決する経験につながります。

家庭でできる４つの取組

- 明日の準備を自分で考える。時間割や持ち物を確認し、必要なものを準備する。
- 家の仕事を任せてみる。洗濯物をたたむ、食器を運ぶ、植物に水をやるなど、年齢に合った役割を持つ。
- 選ぶ機会をつくる。「どちらがいい？」と選択肢を示し、自分で決める経験を増やす。
- 振り返る時間をつくる。「できたこと」「工夫したこと」「次にやってみたいこと」を話す。

こんな声かけを

☺「どうしたらできそうかな？」
☺「まず、どこから始めてみる？」
☺「自分で考えた方法を教えてくれる？」
☺「困ったときは、誰に相談できそうかな？」
☺「うまくいかなかったけれど、次はどうしてみよう？」



すべてを子どもに任せる必要はありません。子どもの様子を見ながら、大人の支えを少しずつ減らし、「自分でできた！」を増やしていきましょう。

一人ひとりのよさや可能性を大切にし、学校・家庭・地域で子どもの成長を応援していきましょう。



（イラストないのかんじにはよみがなをつけることができません。ごようしゃください。）

泉南市教育委員会　教育部　学力向上対策室
〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代374-4
TEL：072（483）3673

花笑み sennan